

CSRレポート



編集方針

コベルコシステムでは、2007年の設立20周年を契機に、従来から進めてきた個々の社会的責任を果たすための活動を整備し、CSRとして体系化しました。

体系化においては、経営ビジョンを実現するために進めている経営品質向上活動の一環として取り組みました。

さらに、2009年からスタートした中期経営計画において「持続的発展に向けて」を重要な施策として位置付け、CSR活動のより一層の強化に取り組んでおります。

このたび、初めて、これらの活動をステークホルダーの皆様へのご紹介資料として取りまとめました。

編集にあたっては、コベルコシステムが重要と考える活動を中心に、ステークホルダーの皆様に、できる限りわかりやすくお伝えすることを心がけました。

報告対象期間

2009年（2009年1月1日～2009年12月31日）の取り組みを中心に、一部それ以前からの経緯や活動、将来の活動予定についても記載しています。

Contents

経営ビジョン/会社プロフィール	2
トップメッセージ	3
CSRを支える仕組み	5
マネジメント体制	6
コンプライアンス	9
品質管理	11
情報セキュリティ	13
環境保護への取り組み	16
環境保護	17
ステークホルダーとの関係	21
お客様とともに	22
社員とともに	24
ビジネスパートナー様とともに	29
社会とともに	31
CSRに関連する認証・認定	33
編集後記	34

経営ビジョン

私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、
確かな知識と卓越した技術による
ITソリューション/サービスを通じて、
お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

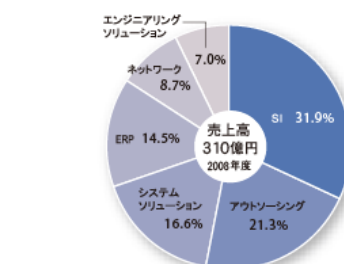
コベルコシステム株式会社 プロフィール

会社名称：コベルコシステム株式会社
創 立：1983年10月1日（神鋼コンピュータシステム株式会社として発足）
設 立：1987年 7月1日（コベルコシステム株式会社に商号変更）
代 表 者：代表取締役社長 奥田 兼三
資 本 金：4億円
社 員 数：1013人（2009年4月1日現在）
本 社：〒651-0072 神戸市中央区脇浜2丁目11番14号（神鋼ビル ネオエスト）
U R L： <http://www.kobelcosys.co.jp/>
事 業 所：

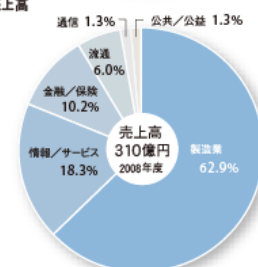


売上高：310億円（2008年度）

売上構成：■ ビジネス別売上高



■ 業種別売上高



■ トップメッセージ ■

CSR への取り組みを前進させる



コベルコシステムでは、「自立した企業」として社会的責任の重さが一層増してきている事を背景に、設立20周年にあたる2007年に、CSRへの取り組み体制を強化しました。

従来から進めてきたCS (Customer Satisfaction: お客様満足度) 向上活動やES (Employee Satisfaction: 社員満足度) 向上活動を始め、企業倫理の徹底やコンプライアンス、品質保証、情報セキュリティといった「誠実な企業活動」により、ステークホルダーの信頼を向上させる仕組みを整備し、また、社会貢献、環境保護など「社会との調和」を図っていく活動を強化しました。

経営幹部と社員全員が、すべてのステークホルダー(お客様、社員、ビジネスパートナー様、株主様、行政、地域社会)の期待に気づき、事業活動の中でバランスよく、対応していくことの大切さを認識し、CSRに取り組んでいます。

さて、昨今の急激な経済環境や社会情勢の変化に伴い、コベルコシステムに対するステークホルダーの期待も大きく変化し、果たすべき社会的責任が変化してきています。

たとえば、新型インフルエンザ等によるパンデミックが発生したときには、お客様、社員、ビジネスパートナー様を始め、多くのステークホルダーへの影響が予測されます。

そのような場合、お客様システムの運用や保守サービスなどの継続のために、リモート環境での業務遂行や重要な業務を遂行するための補完体制が必要となります。お客様のサプライチェーンの中でのコベルコシステムの役割をしっかりと果たさねばなりません。それには、有事を想定していかにビジネスを継続させるかを事前に定めた総合的な対応策、いわゆる、事業継続計画(BCP: Business Continuity Plan)や、リスクマネジメントの整備が重要になります。

また、コンプライアンス、品質保証、情報セキュリティにおいては、コベルコシステム社内の強化だけでなく、パートナー様を含めた全体のガバナンス強化が一層重要になってきています。さらに環境面においては、グリーン調達ニーズへの対応やグリーンITソリューションの推進などが強く求められるようになってきています。

コベルコシステムは、2009年4月に新たにCSR推進委員会を発足させ、この委員会を中心に、ステークホルダーの期待の変化や、その対応活動のマネジメント体制を強化しました。

また、2002年から取り組んでいる経営ビジョンの達成に向けた経営品質向上活動の中にCSR推進委員会活動を明確に位置付け、ステークホルダーの期待や経済環境の激変にも対応できる礎を築き、すべてのステークホルダーとの持続的発展を目指します。



コベルコシステムの主なステークホルダー

中期経営計画(2009年～2011年)では、経営ビジョンの達成に向けて「全ての質をワンランクアップさせる」を目標にし、ステークホルダーとのコミュニケーションの改善を図り、経営陣のリードにより、よりスピード感を持って実効性のある対策を打ち出せるようにしました。コベルコシステムは法令遵守やフェアな競争、環境対策、雇用における公平性等により、あらゆるステークホルダーとさらに信頼関係を深めます。また、サービスや納品物を、より信頼のおけるプロセスでお客様にお届けし、それがどのような企業経営のもとで作られたかというところまでお客様に説明できるレベルを目指します。

本CSRレポートは、私たちが当たり前のことを当たり前に取り組んできた活動の中、重要と考えるものをまとめました。まだまだ改善すべき点や課題などありますが、皆様のご助言、ご意見をいただければ幸いです。

代表取締役社長

奥田兼三

CSRを支える仕組み

誠実な企業活動により、社会との信頼関係を築き、
社会と調和した持続的な発展を目指します。



■ マネジメント体制

コベルコシステムは、経営品質向上に取り組み、弛みなき革新を続け、経営品質を一層向上させたいと考えています。そのため、ステークホルダーからの要請や、その変化に誠実に対応し、社会と調和した活動をしていくことが重要と考えています。

■ 経営品質向上活動

コベルコシステムは、財団法人日本生産性本部が設立した「経営品質協議会」が中心となって推進している経営品質向上プログラムをベースに、経営品質の向上を図ってきました。その基本理念は、お客様本位、独自能力、社員重視、社会との調和の4つの要素から構成されており、これらをすべて満たすことが卓越した経営に共通する条件としており、その成熟度を評価・確認(アセスメント)する項目(カテゴリー)のひとつとして「経営における社会的責任」、いわゆるCSRをおいています。

コベルコシステムでは、経営品質を向上していくために、全社員による経営革新を地道に続けてきました。この取り組みが「栃木県全国企業品質賞」で認められ、2006年に最優秀賞、2007年に大賞を受賞しました。



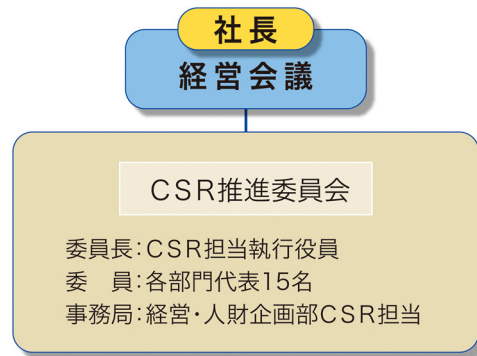
しかしながら、経営品質向上にはゴールはなく、成熟度に応じて革新を生み出し続けなければなりません。社員一同、弛みなき革新を続け、経営品質を一層向上させています。

■ CSR推進委員会

コベルコシステムは、中期経営計画において「社会との調和」の観点からCSRを強化することとし、2009年4月にCSR推進委員会を設置しました。

本委員会は、委員のリーダーシップによる継続的かつ迅速な活動を通じ、すべてのステークホルダー(お客様、社員、ビジネスパートナー様、株主様、行政、地域社会等)からの信頼向上を図り、社会とともに会社が永続的に発展することを目的としています。

重要な課題に関しては、フォーカスエリアと定めて活動しています。委員会での審議内容および決定事項はCSR推進委員によって部門内に徹底され、CSR意識の向上に対し率先垂範する役割を担っています。



■ コーポレートガバナンス

株主総会を起点とし、取締役・取締役会、監査役・監査役会、および経営会議を基盤とする経営管理体制によって運営しています。

取締役の任期は1年とし、各年度の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる体制にしています。取締役会は、四半期単位および必要随時開催とし、業務執行の基本となる意思決定や監督を行っています。

監査役は、四半期単位および必要随時開催される監査役会において、会社経営の業務監査および会計監査によって、違法または著しく不当な職務執行行為がないかどうかを調査し、監査に関する重要事項の決定および監査意見の形成・表明を行っています。

経営会議は、経営戦略や重要施策の策定等、経営上の重要事項を審議・決定します。

2009年4月に意思決定の迅速化を図るため、執行役員制度を導入しました。

■ 内部統制

コベルコシステムは、米国に本社をもつIBMグループ会社の一員であり、米国SOX法に準拠したIBMの内部統制の配下にある会社です。財務諸表の信頼性やビジネスコントロールに対するトップマネジメントの責任を明確にするため、最高経営責任者(社長)および最高財務責任者(CFO)は、年次ならびに四半期単位で会計報告の正確性/網羅性に関して、SEC(米国証券取引委員会)の基準に従って宣誓しています。

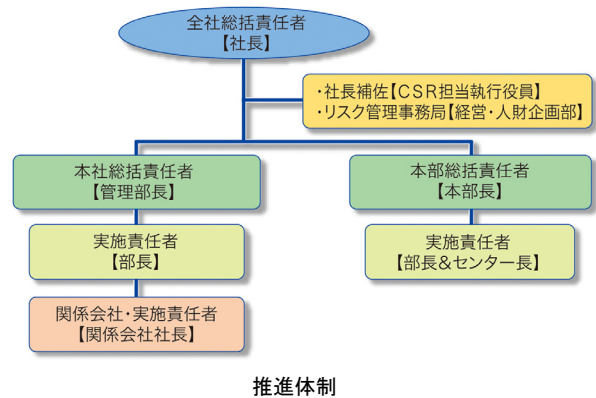
業務の有効性や効率性、財務諸表の健全性や信頼性、法令遵守などコベルコシステムの内部統制環境が機能していることを保証するためにSOXテストやモニタリングを実施しています。たとえば、「社内規程に従って適正な承認プロセスが実施されているか」、「業務実行者とチェック担当者の職務権限分離が実施されているか」などを確認しています。

また、IBMによる内部監査(Corporate Audit)を受けています。

■ リスクマネジメント

企業を取り巻く環境変化の速度が加速傾向にあり、その結果直面するリスクが急速に増加し、かつ多様化しています。この認識の下、コベルコシステムの持続的発展を脅かすあらゆるリスクに対処するためのリスクマネジメント体制とリスク管理の仕組みを見直し、再整備しました。

コベルコシステムのリスク管理は、各部門において「リスク管理チェックリスト」を活用した自主管理・自主点検を基本とし、計画・実施・点検・改善の一連のサイクルにより、継続的にリスク対応の強化に取り組んでいます。そのリスク管理の目的・考え方は、「業務の有効性と効率性の確保」、「財務報告の信頼性の確保」、「法令遵守」および「資産保全」とし、その阻害要因となるリスクを識別、分析し、リスクへの対応と内部統制の整備、改善を行うこと(リスクの評価と対応)としています。



推進体制



リスクマネジメントサイクル

■ 事業継続計画 (BCP: Business Continuity Plan)

被災時にはヒトやモノなどの経営資源が著しく不足し、事業を一時的に停止せざるを得ない状況になります。コベルシステムでも、1995年の阪神・淡路大震災の際に、このような状況を経験いたしました。また、2009年5月国内初の新型インフルエンザ感染発生による神戸での騒動は記憶に新しく、秋から冬にかけて新型インフルエンザの感染拡大による学校閉鎖等の日常生活への影響が全国で出ました。

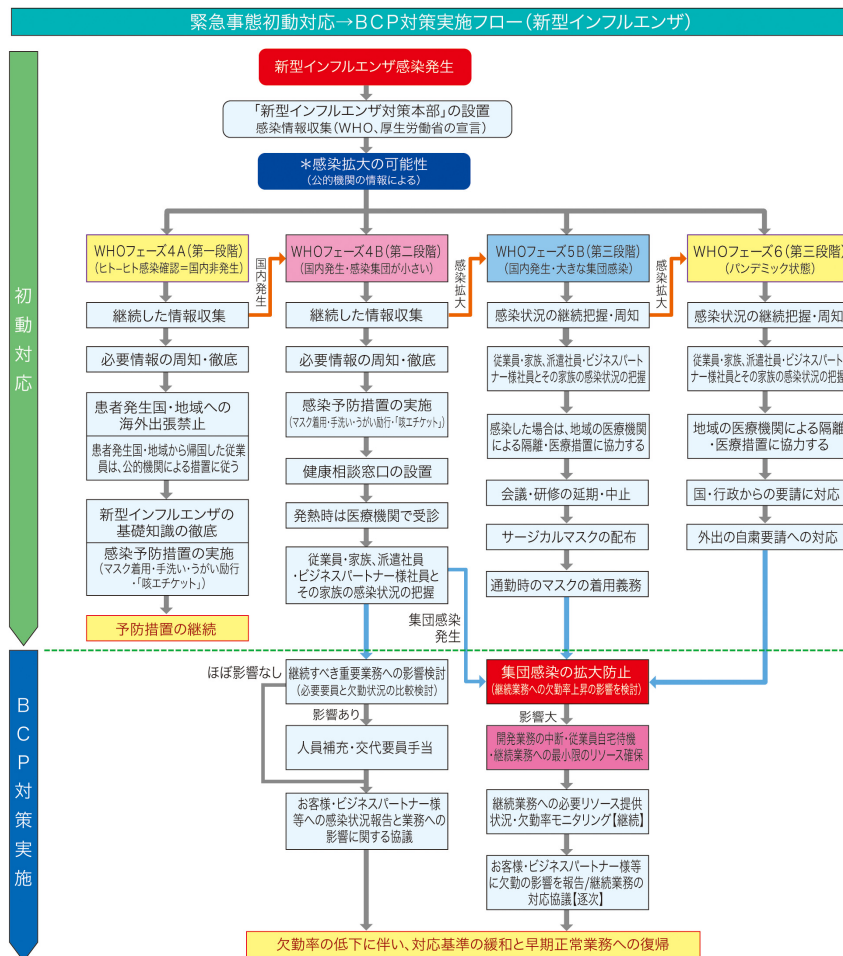
このような地震やパンデミックによる被害がお客様の事業に及ぼす影響をできるだけ小さくしなければなりません。そのためには、コベルシステムのサービス事業をすぐに復旧する、または限りある経営資源(ヒト、モノ)を有効に活用してサービス事業を継続していかなくてはなりません。

そこで、阪神・淡路大震災後に策定した従来の災害対策や緊急対応施策を見直し、地震による被災時やパンデミック発生時における行動指針や対応策を事前に準備・計画しておく事業継続計画を策定し、「緊急対策本部」が迅速に設置され、お客様への影響を最小限にする体制を整備しました。

特に、新型インフルエンザ(パンデミック)への対応として、50%欠勤発生時に継続すべき重要業務の洗い出し、対応策ならびに課題整理を完了しました。

また、パンデミック発生時の事前準備として、マスクや手指消毒用アルコールの備蓄、社員の安否を確認するための携帯電話/PCによる緊急連絡システムの導入等、具体的な取り組みを実施しました。

今後、事業継続計画として、重要な災害や脅威への対応策・体制等を定期的に見直すとともに、その有効性を確認するための訓練を実施します。



緊急事態初動対応・BCP 対策実施フロー例

■ コンプライアンス

社会からの要請が日々変化中、コンプライアンスも変化・拡大してきています。このような中、公正で透明性の高い、健全な企業であるために、法令遵守だけでなく企業としての行動が高い倫理観に基づいて遂行されるように努めています。

■ コンプライアンスについての考え方

コベルコシステムでは、コンプライアンスを狭義の意味で捉えるのではなく、社会規範・倫理に則した行動すべてを含むものとして捉え、それらの要請の変化に敏感に気付き(Sense)、対応(Respond)することを社内に浸透させることに注力しています。

さらに、社会と調和した持続的発展を図るため、社会的責任への取り組みの強化を、中期経営計画の中で「企業倫理の遵守と健全な成長」として掲げ、役員を始め全社員に繰り返し徹底しています。

■ コンプライアンスについてのトップ方針

コンプライアンス推進に当たり経営トップの方針を示し、この方針に沿った全社の活動を進めています。

コンプライアンスについてのトップ方針

- ▶ ビジネスを推進するに当たり、コンプライアンス〔法令、社内規範（社内規程、業務マニュアル等）、お客様との契約〕を遵守すること。
- ▶ コンプライアンスを遵守するためのプロセスや仕組みを整備し、確実にマネジメントすること。
- ▶ コンプライアンス違反を未然防止するために、リスクマネジメントを確実に実施すること。
- ▶ 社会要請が日々変化中、コンプライアンスも変化しており、常に敏感(センシティブ)であること。

■ 企業倫理規程

コベルコシステムでは、お客様を始め広く社会からの信頼と期待に応えるため、社員一人ひとりが遵守すべき行動基準を「企業倫理規程」として制定しています。企業倫理規程は、社員がビジネスを行うに当たり、個人として「なすべきこと」、「してはいけないこと」の基準を示すものです。

社員一人ひとりが、コンプライアンスの考え方をより深く理解し、その実践に当たって、法令遵守はもちろん、より高い倫理観を持って日々の行動をとることができるよう、企業倫理規程を全社員が毎年熟読した上で同意(署名)することを義務付けています。

■ 推進体制

コベルコシステムでは、コンプライアンス担当役員の下、経営・人財企画部がコンプライアンスに関する業務を担当し、企業倫理や法令遵守、社内諸規則の徹底に努めています。

また、適正取引推進や個人情報保護など、社会の要請が高まり、全社にまたがるコンプライアンスに関しては、委員会や連絡会などを設け、その徹底強化に努めています。

一方、重大なコンプライアンス違反やトラブルが発生した場合、経営会議にて、その状況確認、原因究明および対応策の決定が行われます。

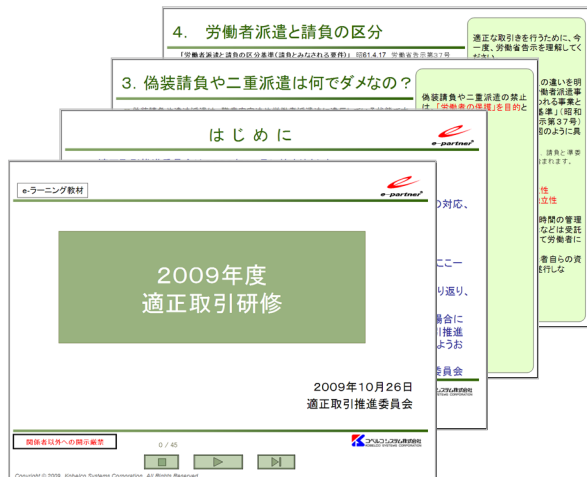
CSR推進委員会では、中期経営計画における「社会との調和/企業倫理の遵守と健全な成長の追求」という基本方針に則り、2009年5月にコンプライアンス強化分科会を設置し、全社横断的なメンバーで「コンプライアンスへの取り組みのワンランクアップ」を目指した活動に取り組んでいます。

■ コンプライアンス教育

コンプライアンスの考え方を社員の意識レベルまで浸透させるため、コンプライアンスの基本として「インテグリティ」研修を全員が受講することを義務付けています。インテグリティとは「清廉、誠実」を意味する言葉で、単に法令遵守にとどまらず高い倫理観を持って企業活動が行われることを目指しています。

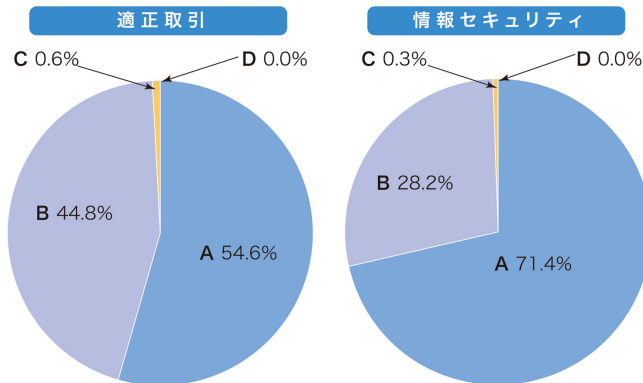
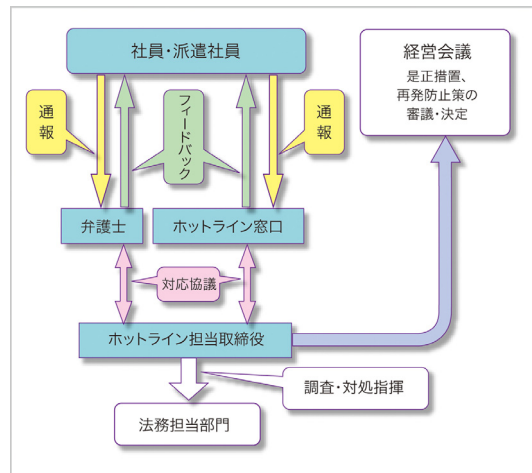
さらに、適正取引研修、情報セキュリティ研修、個人情報保護教育、セクシャルハラスメント研修、弁護士講演会等のコンプライアンス研修を、集合研修やe-ラーニングにて実施しています。

また、新入社員研修にコンプライアンス研修を組み込み、倫理観の高い社会人として歩み出せるよう育成を行っています。



■ ホットライン（通報制度）

コンプライアンス体制を充実させるため、2005年に「コベルシステム ホットライン」を開設しました。公正で健全な企業環境を確立するため、職制を通じることなく、社内または会社の定める社外の受付窓口に対してメールや電話による通報・相談ができるようにしています。これは、法令や倫理などのコンプライアンス違反の未然防止や、早期に問題を把握して対策を講じるための仕組みです。



- A 理解できた**
大変参考になる(身近な問題がとりあげられているなど)
- B 大体理解できた**
理解の助けになる(具体例に即して解説されているので)
- C あまり理解できなかった**
回答困難である(関係のある業務に携わっていない等で設問が理解できず)
- D 理解できなかった**
クイズ全体にピンと来ない(関係のある業務に携わっていないなどで)

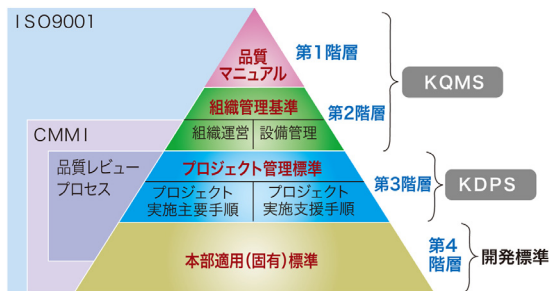
2009年度コンプライアンス関連研修のアンケート結果

品質管理

コベルシステムでは、品質を経営の重要テーマとして位置付けてきました。お客様の経営や事業に貢献するシステムインテグレーションサービスを提供していく責任の大きさを認識し、常に品質の向上に努めています。

品質保証の概要

コベルシステムでは、システム開発における品質の向上を図るため、従来からさまざまな取り組みを行ってきました。1999年に認証を取得したISO9001ベースにCMMI (Capability Maturity Model Integration)の考え方を取り入れ、その取り組みを全社で統一した品質マネジメントシステムである「KQMS」を構築しました。さらに、この「KQMS」の下にシステム開発プロセス標準である「KDPS」、個々のサービスプロジェクトの状況をレビューする品質レビュープロセスといったコベルシステム独自の仕組みを構築しています。これらの仕組みは、コベルシステムの活動の最終目標である「お客様の満足」に大きく貢献しています。



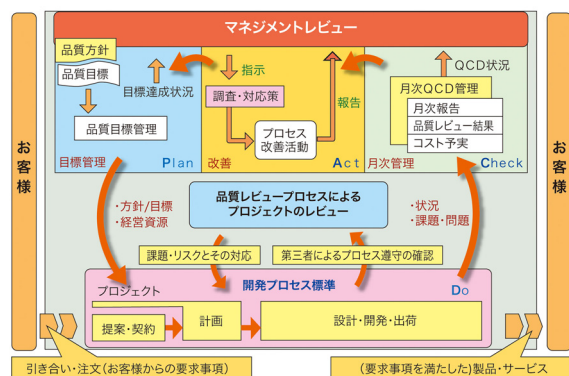
	取り組み内容
1999年	ISO9001:1994 認証取得
2003年	品質レビュープロセス構築
2007年	KQMS 構築
2009年	KDPS 構築

主な品質保証の取り組み

KQMS (KOBELCO Systems Quality Management System)

コベルシステムでは、1999年にISO9001の認証を取得し、以来10年にわたって適用業務分野の拡張を果たしてきました。そして、お客様からの引合～受注～生産(開発)～出荷の各プロセスに合致するように手順を整備し、PDCAの管理サイクルを回して継続的な改善を図る仕組みを構築してきました。

全社で共通のQ(品質)、C(コスト)、D(進捗)の管理サイクルを制定して、それぞれのプロジェクトの状況を一元管理できる仕組みを構築し、2007年から運用を始めたのがKQMSです。これにより、QCDの平準化とプロジェクト情報の見える化を図り、さらに品質方針、品質目標管理によるマネージメントレビューを通して組織としてのQCDのレベルアップを図っています。

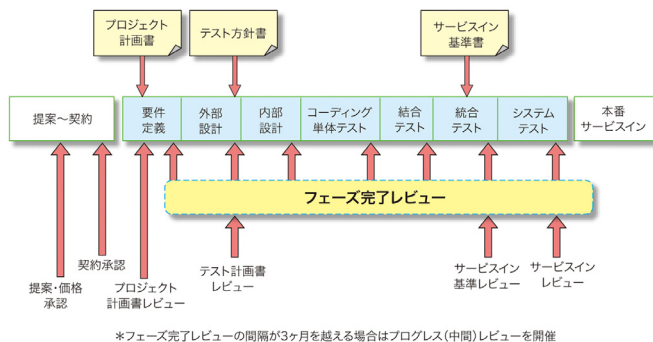


■ K DPS (KOBELCO Systems Development Process Standards)

KDPSとは、システム開発・構築等のソフトウェア開発のベストプラクティスとしてのプロセス改善モデルであるCMMIの考え方を取り入れ、コベルコシステム独自のプロジェクト管理の手順を開発プロセス標準として組み立てたものです。これまで社内で統一し切れていなかった手順・様式ですが、2009年度からKDPSとして体系化して、コベルコシステムのスタンダード(標準)と位置付けて施行しています。特にプロジェクト計画や検証活動の手順・様式を充実させており、管理作業の効率向上のためのツールやサンプルも準備しています。

■ 品質レビュープロセス

情報サービス産業では、製品を作り出して納品するまでの活動を「プロジェクト」と定義しています。コベルコシステムの品質レビュープロセスとは、各プロジェクトがお客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内でのソリューション提供を確実にするためにやっている独立のレビュー活動です。そのため、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象としており、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策の策定などのリスク管理をするために、特別に訓練されたレビューアによって実施しています。



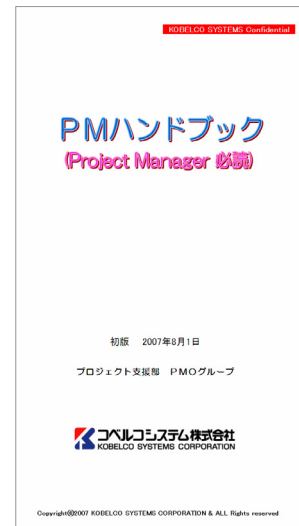
■ さらなる品質保証の高みへ

コベルコシステムがこれまで行ってきた品質保証に関わる取り組みは、システムという形のない製品に対して、いかにこれまでの製造業における品質保証の考え方を適用させていくかという命題との相克の連続でした。

品質を保証する仕組みの構築と、精度の向上のために必要な制度や様式の整備に、この取り組みにかかるエネルギーの大半を注いできました。

その結果、プロジェクトマネジメントの質的な向上を図ることが、最も無駄なく製品の品質を担保できるという結論に至りました。この一環として、プロジェクトマネジメントの質的な向上を目的として、プロジェクトマネジメントに必要な情報を集めた「PMハンドブック」を全社員に配布しています。

コベルコシステムの品質保証活動は、今後も「プロジェクト品質の向上」を念頭に置き、お客様の満足を追求してまいります。



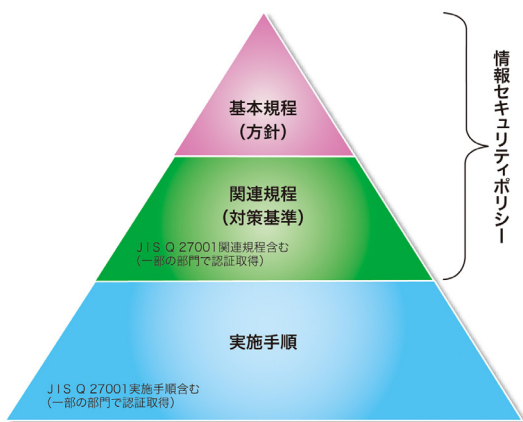
情報セキュリティ

コベルコシステムは、情報サービス会社として、高度な情報セキュリティ管理の枠組みを確立することにより、お客様や社会から信頼される企業であり続けることを目指しています。

■ 基本方針

コベルコシステムは、その経営ビジョンである「私たちコベルコシステムは、お客様と『夢』を共有し、確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます」を全うするため、多くのお客様情報資産を保有し活用する必要があります。

コベルコシステムが取り扱う情報には、お客様の重要情報のみならず、業務運営上の重要情報など、社外への漏洩等が発生した場合には、極めて重大な結果を招く情報が多数含まれています。従って、情報および情報システムをさまざまな脅威から防御することは、コベルコシステムの事業を守るのみならず、お客様を守るためにも必要不可欠です。そのために、情報を扱うすべての従業者やビジネスパートナー様が、それぞれの役割の中で遵守すべき情報セキュリティの包括的な基準として、情報セキュリティポリシーを策定し、それに準拠した実施手順を定め運用することにより、必要な情報セキュリティを確保しています。



■ 情報セキュリティマネジメントシステム

情報セキュリティの水準を適切に維持するためには、状況の変化を的確に捉え、それに応じた情報セキュリティ対策の見直しや情報技術の進歩に応じた同対策の変更が重要です。さらに、情報セキュリティポリシーの見直しを定期的に行い、必要に応じて項目の追加やその内容の充実等を図りながら、将来にわたってその適用性を維持することも必要です。

コベルコシステムでは、これらの対策や適用性の維持を情報セキュリティマネジメントPDCAサイクル(計画・策定、導入・運用、評価・点検、見直し)に定めて、継続的に向上(スパイラルアップ: Spiral up)させていくことで情報セキュリティの強化を図ることを目的に、KSMS (KOBELCO Systems Information Security Management System) と称する情報セキュリティマネジメントシステムを構築しました。

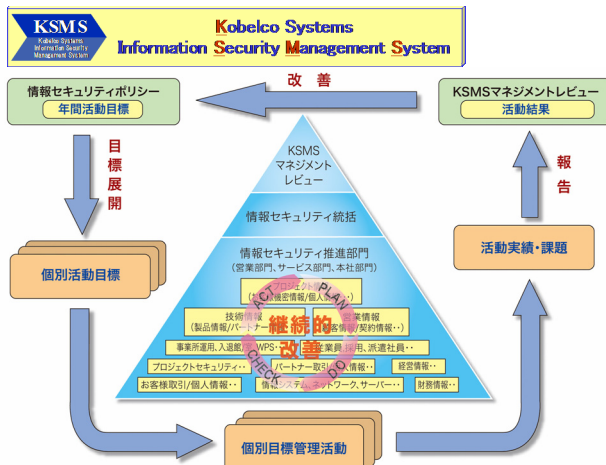
組織全体として情報セキュリティ対策を実施するに当たり、実施体制や評価手順、違反や例外への措置、教育や普及活動などの組織として実施すべき課題を取り上げ、組織としての運用に関係する各社員の権限と責務を明確にし、必要となる組織・体制を明確にする必要があります。

KSMSマネジメントレビューは、社長を筆頭に経営幹部により、①「情報セキュリティポリシー」の制定および見直し、②「年間活動目標」の制定、③目標管理活動の状況確認・評価、を定期的実施し、情報セキュリティに関する明瞭な方向付けと関与を示し、組織内の情報セキュリティを積極的に支持しています。

また、情報セキュリティ統括は、その機能を全社の技術および品質を統括する部門に置き、①各部

門の目標管理活動の実績把握・確認と課題の抽出、②KSMSマネジメントレビューの事務局、③情報セキュリティに関する最新情報の提供、啓蒙・教育を実施します。

情報セキュリティ推進部門は、各事業の営業部門とサービス部門、および本社各部門からなり、「情報セキュリティポリシー」「年間活動目標」にもとづき、各推進部門が「個別活動目標」を設定し具体的に推進します。



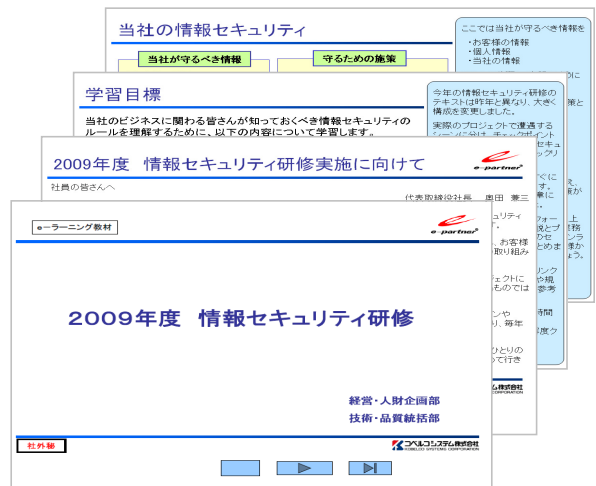
ISMS 認証取得

コベルコシステムのデータセンターでは、お客様の重要な情報やコンピュータ関連機器等の情報資産が集中することから、情報セキュリティをより強固に確保するため、日本工業規格JIS Q 27001:2006に適合した情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)を構築し、外部認証である「ISMS適合性評価制度」の認証を取得しています。

情報セキュリティ教育

コベルコシステムの情報資産を取扱う全従業員を対象に情報セキュリティ教育を実施しています。

個人情報をもとより、お客様からお預かりする重要な情報資産や、コベルコシステムが保有する機密性の高い情報資産の保護を一人ひとりに徹底するため、ネットワークや職場内のパソコンおよびモバイルパソコンの利用、また、書類の取扱い・保管や入退出管理等、遵守すべき基本的な事項や社内規則について、入構時集合教育として実施しています。また、情報セキュリティに関する最新情報・知識の更新とコベルコシステムのセキュリティポリシーや関連規程の再認識のために、定期的にe-ラーニングによる教育も実施しています。



さらに、ビジネスパートナー様には、コベルコシステムのセキュリティ要件を提示して、コベルコシステムの従業員と同等レベルの情報セキュリティ教育を実施するよう、契約などを通じて徹底しています。

■ 個人情報の保護

コベルコシステムは、個人情報保護方針を定め、個人情報の保護管理を的確に実行しています。

1998年4月に「プライバシーマーク」制度が導入されると、コベルコシステムは、早い段階から、日本工業規格JIS Q 15001「個人情報保護に関するコンプ

ライアンス・プログラムの要求事項」に準拠した個人情報保護コンプライアンスを整備し、2000年7月「プライバシーマーク」を取得しました。さらに、日本工業規格JIS Q 15001:2006に準拠するための全面改訂を行い2008年7月に認証を取得しています。

個人情報保護方針

コベルコシステム株式会社（以下、「コベルコシステム」と記す）は、お客様の情報システムに関し、コンサルティングから運用管理まで一貫したサービスを提供しており、さまざまな局面において、お客様の個人情報を始め、サービスを提供する社員やパートナーの個人情報を取り扱い致します。

個人情報に対する事故や事件は年々増加する一方で、紛失や漏洩などが発生するリスクは、ますます高まっております。

コベルコシステムは、このような中で、ビジネス上の責務を確実に果たすこと、及び個人情報保護という社会的要請に応えるため、従業員及び役員が遵守すべき基本的な行動基準として以下の個人情報保護方針を定め、その遵守徹底を図ってまいります。

- 個人情報を取得する場合は利用目的を明確にし、利用目的に沿って、同意を頂いた範囲内でのみ利用いたします。利用目的の範囲を超えて個人情報を利用する場合は、あらかじめご本人の同意を得るための適切な措置を講じます。また、同意なく第三者に提供及び開示はいたしません。
- コベルコシステムの事業で取扱う個人情報及び従業員等の個人情報は、個人情報保護に関する法令、国が定める指針およびその他の規範等を遵守し、適切に管理します。
- 個人情報を第三者に預託する場合は、十分な保護水準を満たしているものを選定し、契約等により適切な措置を講じます。
- 個人情報を含む情報資産は、安全に蓄積・保管し、当該情報の漏えい、滅失又はき損に対して適切な予防並びに是正処置を実施いたします。
- ご本人からの個人情報の開示、訂正、削除等の要請や個人情報及びその取扱いに関する苦情及び相談についても誠実かつ迅速に対応いたします。
- コベルコシステムは、個人情報保護マネジメントシステムを継続的に改善いたします。

以上の活動を通じ、コベルコシステムは高度情報化社会の健全な発展に貢献いたします。

環境保護への取り組み

事業活動における環境保護対策を進めるとともに、
社員一人ひとりの環境意識を高めます。



環境保護

コベルコシステムでは、地球温暖化問題を始めとした環境問題を社会の重要な課題と認識し、事業活動を進める中での環境負荷軽減や自然環境保護に積極的に取り組む責務があると考えています。

■ 環境保護に関するトップ方針

2007年に環境保護をCSR重点テーマと位置付け、経営トップの方針を全社員向けに発信し、この方針に沿った全社の活動を進めています。

地球温暖化の危機が叫ばれる中、私たちコベルコシステムも、この温暖化ガス排出量削減に関心している訳にはいきません。企業の社会的責任を果たすため、経済的な付加価値の向上やコンプライアンス遵守のみならず、持続的な発展に向けた社会や環境に対する責任ある行動と積極的な対応を実践していきたいと考えています。

現在推進している自然環境保護活動(六甲山の自然を守るクリーンハイキングや植樹活動)をイメージキャラクター「Kocoroちゃん」(注)とともに強化していきます。

さらに、私たちがIT企業だからこそ、可能な省紙化や省エネを職場の中で徹底していきたいと考えています。

今後、削減目標設定、実行計画立案とその実践を行い、地球にやさしい企業になるよう全員で努力していきたいと考えています。



注)「Kocoro ちゃん」

神戸市が主催する第12回アニメーション神戸(2007年)の協賛事業として、コベルコシステムの自然環境保護活動に使用するイメージキャラクターを募集しました。

たくさんの応募作品の中から、神戸市に本拠を置く企業として、私たちは六甲山の自然の恵みを守り、育て、親しみ、かつ、それを愉しんでいます。その要素をすべて含んだ作品を選びました。また、愛称は社員から募集し、「Kocoroちゃん」としました。

KocoroのKoはコベルコシステムのKo、roは六甲山のroです。Koとroを結ぶcoは、協力を意味するcollaboration、共存を意味するcoexistenceからとっています。Kocoroには、コベルコシステムと六甲山が「永遠にともに」という願いが込められています。また優しい「心」を持ち続けたいとの思いも含まれています。

六甲山のクリーンハイク、植樹等を実施する場合や、六甲山の自然を紹介するパンフレットやカレンダーなどに活用し、親しんでいただけるキャラクターとして育てています。

■ 事業活動の中での環境保護活動

コベルコシステムの事業拠点では、日常の業務を遂行する中で、オフィス環境の負荷の低減に取り組んでいます。

主な活動	活動内容
■ エコマラソンシステム利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ● エコマラソンシステムは日本IBMがグループ社員の環境意識向上のために提供しているシステムであり、社員個々が年間のエコ目標を設定し、その月々の実績を入力することにより、目標達成状況を自己管理できるようにしています。 ● コベルコシステムでは、本システムの利用促進を社員に働きかけ、環境意識の向上を図っています。
■ サマーエコスタイル	<ul style="list-style-type: none"> ● 毎年、夏季のノーネクタイやクールビズを励行し、冷房電力使用の低減を図っています。
■ 移動エネルギーの削減配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● TV会議システムやe-ラーニングを利用し、出張や研修に伴う移動を減らしCO₂削減に貢献しています。 ● マイカー通勤自粛日を儲け、CO₂の削減に貢献しています。
■ グリーン購買	<ul style="list-style-type: none"> ● 事務用品購入に関し、環境に配慮したものを優先的に購入しています。
■ 3R (Reduce、Reuse、Recycle) の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 会議室未使用時の電源スイッチオフや長時間パソコンを使用しない場合、自動的にパソコンの電源が切れる設定の励行を行い、電力使用量の低減に努めています。 ● 文書印刷に関して両面印刷、縮小印刷等を励行し、紙の使用量の低減に努めています。 ● 社内便の封筒やクリアファイルなど、事務用品の再利用を励行しています。 ● 電池の再充電型電池への入れ替えを進め、資源の削減に努めています。 ● 紙やプラスチックを廃却する場合の分別を徹底し、資源のリサイクルに努めています。

■ 六甲山の自然環境保護活動

コベルコシステムの本社がある神戸は六甲山の自然に恵まれ、地域社会全体として、その恵みを守り、育て、親しみ、かつ、それを愉しんでいます。

コベルコシステムも良き企業市民として、六甲山の自然環境保護活動を積極的に進めています。

➤ 六甲山クリーンハイク

2006年11月から、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」の協力を得て、社員や家族が六甲山の自然観察をしながら清掃活動を行う「六甲山クリーンハイク」を実施しています。

2009年も日本IBMグループ社員にも参加を呼びかけ、10月に実施しました。



➤ 植樹

2007年の設立20周年を機に、六甲山の自然環境保護のため、社員ボランティアが初夏に六甲山にて採取したヤマアジサイを挿し木して育成を行い、晩秋に六甲山に再び植え戻す植樹を行っています。

2007年以降、毎年、有馬温泉癒しの森と兵庫県立六甲山自然保護センターでの植樹実施や周辺の草取り、整地などの補修作業を実施しています。

これらを通じ、社員がより六甲山の自然に親しみ、慈しめるようにしています。



➤ 六甲山の自然紹介

六甲山に生息する動植物を紹介する冊子・パンフレット・カレンダーなどを配布しています。



本年は、「神戸・六甲山のチョウと食草ハンドブック」を神戸市教育委員会を通じ、市内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・保育所・図書館に約700部贈呈しました。



■ グリーン IT ソリューション

コベルコシステムでは、ITそのものの環境負荷低減を図る「ITの省エネ」に関するソリューションやITを利用して資源の消費を抑える「ITによる省エネ」に関

するソリューションを提供しています。

これらを「グリーンITソリューション」として整備し、お客様の環境対策をご支援いたしております。

分野	主なソリューション
<p>■ 「IT の省エネ」に関するソリューション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 省電力型IT機器の販売および移行支援のご提供 省電力型の新型サーバー機器販売や、現行システムを省電力型サーバーへの移行し、省エネや省スペースを実現します ● サーバー統合支援のご提供 複数のサーバーに分散したシステムを少数のサーバーに統合し、省エネ、省スペース、省力化を実現します ● 仮想化技術導入支援のご提供 サーバーの平均稼働率が20%程度であることに着目し、空いているサーバーのリソースを他のアプリケーションなどで利用することにより、サーバーの増設を抑止します
<p>■ 「IT による省エネ」に関するソリューション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 省紙対策ソリューションのご提供 帳票データを電子的に参照できるシステムや電子承認システムの導入支援 ● テレビ会議システムソリューションのご提供 出張や移動時間の削減を図るテレビ会議システムの導入支援 ● その他のお客様の環境対策ご支援のご提供 <ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物管理システムの構築支援 ● 物流管理システムの構築支援 ● 置場管理システムの構築支援

ステークホルダーとの関係

ステークホルダーの皆様との信頼関係を深め、
ご期待に応えられるようベストを尽くします。



お客様とともに

「私たちコベルコシステムは、お客様と『夢』を共有し、確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます」を経営ビジョンに掲げています。お客様が「こうありたい」という姿(夢)をともに考え、実現し、喜んでいただけることが私たちの夢です。お客様のご満足を経営の中心に置き、社員一人ひとりがお客様に最大の価値を提供するという熱い想いで活動し、お客様から信頼される真のパートナーになることを目指しています。

■ お客様満足度向上推進体制

➤ CS委員会

2002年5月に第1回CS委員会を開催し、2009年12月で74回を数えます。経営幹部を委員長として、各本部の営業部長と幹部から1~2名、本社部門の全部長の合わせて約15名でメンバーを構成しています。お客様システムの安定稼働に向けてのアクション、お客様満足度調査結果に対する分析や対策立案、お客様にお届けする価値を最大化するための取り組みの検討など、お客様のご不満への対応やご満足度を高めるための会社や部門間にまたがる重要なテーマに関して活動しています。

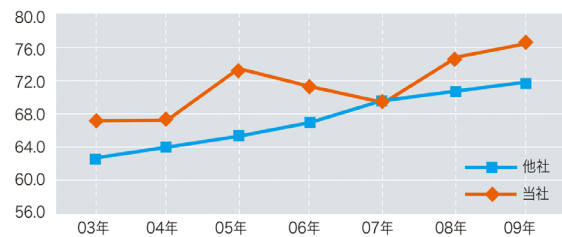


➤ 技術・スキル委員会

2004年11月に技術委員会とスキル委員会が統合され、技術・スキル委員会として新たに活動を始めました。経営幹部を委員長に各本部の開発部長合わせて約20名でメンバーを構成しています。プロジェクト品質の向上、品質保証体系の策定、グローバル開発を含めた生産性向上、今までに蓄積した経験のアセット化推進(「秘伝のタレ」「秘伝のワザ」)など、お客様にお届けするサービスの「高品質」と「高生産性」を追求しています。

➤ お客様満足度調査

お客様のご満足度やご評価を今後の活動に活かすために、2002年からお客様にアンケート調査をお願いしています。営業部員の活動、SEの活動、製品/サービス/成果物、事務処理など43の質問項目への評価とコベルコシステムへの改善点など忌憚のないご意見をいただきます。いただいた結果に関しては、直接お客様を訪問し、書かれた背景や意図されることなどをさらに詳しくお聞きして理解を深めます。それを分析して改善活動に展開し、その進捗状況をお客様と情報共有しています。



お客様総合満足度

➤ プロジェクト満足度調査

コベルコシステムがご提供させていただいた個々のプロジェクトに対して、導入して運用が定着した頃にお客様のご評価をいただいています。プロジェクトの進め方、お客様とのコミュニケーション、サービスの品質、期待された価値の実現の見通しなどの質問項目への評価とご意見やご要望をいただいています。全社的な改善が必要なテーマに関しては、プロジェクトチームだけでなくCS委員会でその共有と改善アクションを検討します。

■ お客様とのコミュニケーション

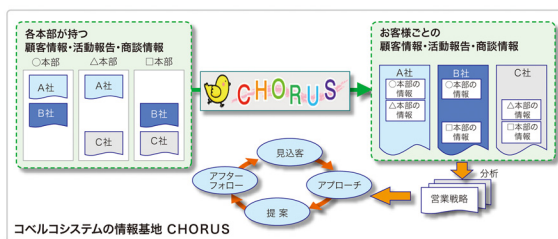
➤ SET/MET

お客様のキーパーソンとの合意に基づくお客様満足度向上のための活動の約束(SET)と実施状況のレビュー(MET)を行い、さらに満足していただくためには何が必要かを考え、実施するサイクルを回しています。コベルコシステムに対するお客様の期待を把握し、その期待に応えられているか、応えられていない場合は何をすればよいかを考えることで、お客様との信頼関係を構築し、ひいてはお客様のビジネスに貢献することを目的としています。

Setting customer expectations
then ensuring they are **Met**

➤ 情報基地「CHORUS」

お客様を深く理解し、お客様のニーズに的確に応えていくには、お客様に関するさまざまな情報を蓄積して全社で共有することが重要です。コベルコシステムでは、2008年に自社の組織やサービス・製品といった切り口ではなく、「お客様」という切り口で、そのお客様の情報や、各営業担当者の営業活動の状況などを全社で共有できるシステム「CHORUS」を構築し、情報基地として活用しています。



■ 一人ひとりの CS 意識醸成

➤ CS改善サークル活動

現場が自主的に行う組織横断型の活動としてCS改善サークル活動が挙げられます。CS向上に直接結びつくテーマだけでなく、品質向上や業務プロセス改善など、間接的にCSを向上させるテ

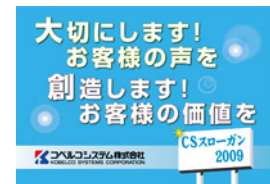
マに取り組むサークルもあります。6ヶ月程度の活動を行い、その成果を年に1度コンテスト形式の活動成果発表会で発表します。最優秀賞に選ばれたCS改善サークルは、コベルコシステムの代表としてIBMグループのCS改善活動発表会に参加します。2008年は39サークルの活動が、2009年には57サークルの活動になり、確実にCSの輪が広がっています。

➤ CSスローガン

コベルコシステムの社員は、いかにお客様にご満足いただけるかを念頭において業務に取り組んでいます。2007年以降、1年間を通してCSの重要性を理解し、常に意識して活動するために、毎年、社員全員参加のもとでCSスローガンを決めていきます。



CSスローガン 2010



CSスローガン 2009



CSスローガン 2008



CSスローガン 2007

➤ e-ラーニング

社員一人ひとりがお客様中心での活動の重要性を再確認する目的で、「お客様視点経営の実践に学ぶ」と題するe-ラーニング教材の受講を全社員に義務付けています。



社員とともに

「コベルコシステムの最大の財産は人であり、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮こそが会社発展の原動力である」という考え方を人事基本理念にしています。

コベルコシステムでは、「人財」の「財」を「材」ではなく「財」としていますが、これは正にヒト(社員)は「宝 = 財」と考えているからです。また、「お客様第一主義」のもと、「CS経営」と「全社員参加型経営」を根幹に据え、お客様がハッピーであるためには、先ず社員がやり甲斐を感じてハッピーでなければならないと考え、「イキイキ、ワクワク仕事ができる会社」でありたいと願っています。

そのため、困ったときには仲間からの支援が得られ、安心して気持ちよく働ける職場環境や制度の充実を図るとともに、全員が「自律した知的プロフェッショナル人財」となるべく、人財育成に注力しています。

人事制度

➤ 複線型プロフェッショナル職制度

社員一人ひとりが、自分の将来に向けたキャリアを考え、プロとしての自覚を持ち自立的に行動していくための基本的な仕組みとして、ライン/セールス/コンサルタント/プロジェクトマネジャー/ITスペシャリスト/経営スタッフ/事務の各専門職としてのキャリアパスを設けた複線型プロフェッショナル職制度を採用しています。特に、セールス/コンサルタント/プロジェクトマネジャー/ITスペシャリストの各職種は、スペシャリスト審査の通過を条件として上位社員級に進める運用としており、自律的なスキルアップ意欲を高め、お客様に対して高品質のサービスが提供できることを狙っています。

社員級	ライン	セールス	コンサルタント	プロジェクトマネジャー	ITスペシャリスト	経営スタッフ	事務
G1 主管	本部長/部長	コベルコシステム認定プロフェッション				スタッフ	担当部門
G2 副主管	部長/G長・室長	セールス コンサルタント	コンサルタント	プロジェクト マネジャー	ITスペシャリスト		
G3 専任	G長・室長						
G4 主任		プロジェクト マネジャー	ITスペシャリスト				
G5 副主任		スペシャリスト審査					
G6 先任	セールス	システム エンジニア					
G7 初級							

これに加え、コベルコシステムでは、G7~G1の7段階の社員級制度を採用しており、プロフェッショナル職種と組み合わせて社員級等級基準を制定しています。これは、プロフェッショナル職種

ごと、社員級ごとの業務遂行能力のレベルを規定したものであり、昇級時の査定のガイドラインとして、また個人にとっては自らのキャリア形成の目標値として活用されています。

➤ 人事評価制度

コベルコシステムでは、中期経営計画・年度予算・年度実行計画をベースに、部門・個人へと方針展開・目標設定を行っています。また、目標管理制度と複線型プロフェッショナル職制度と相まって、成果・貢献主義に基づき、評価し処遇に結び付けています。

特に、コベルコシステムの目標管理制度であるC.C.P(Career Communication Program)の特徴として、業務目標と合わせてスキル目標も設定し、年2回実施される上司とのレビューで、目標に対する進捗状況や達成度について上司と本人とのすり合わせを行うことにより、評価の透明性・説得性を高め、この評価結果に連動した賃金・一時金査定および昇格査定を行っています。

➤ 人材育成プログラム

コベルコシステムの目指すべき方向性や価値観を理解した上で、自分の果たすべき役割・職責を明確に認識し、自発的に判断・行動する個人/組織体(自立と成長)をあるべき姿としてとらえ、自律したプロフェッショナル集団を目指しています。

それに向けて、業務目標・スキル目標と合わせ、

個別キャリア計画を登録できるようにシステム化し、これを活用して個人の「何をしたいのか」(Want)、「何ができるのか」(Can)と、「何をすべきか」(Should)を認識し、個人と組織のベクトルを合わせ、上司と相互理解を図り、計画的な育成・配置により、各人の活性化と一層の能力向上・成長を促進しています。

また、社員は、ITに関する知識・スキルはもちろん、お客様企業の業務や業界動向を熟知する必要があります。そこで、業務知識・スキルを計画的かつ早期に習得することを狙いとして、アプリケーションマスター認定制度が導入されました。これは、コアとなるビジネスに必要な業務・業界知識を8分野に整理・体系化し、所定のレベルの知識・スキルを持つ社員を、プラチナ、ゴールド、シルバーの3つのレベルでアプリケーションマスターとして認定するものです。

認定等級	認定レベル	認定業務分野
プラチナ	対象業務分野のアプリケーションシステムの提案・開発(特に分析・評価段階)・運用において、お客様をリードできるレベルの高度な専門的・総合的業務知識を、ナレッジ、スキルとして活用することができる。	① 生産管理 ② 経理・財務 ③ 物流管理
ゴールド	対象業務分野のアプリケーションシステムの提案・開発(特に要件定義・基本設計段階)・運用において、専門的・総合的業務知識を保有し、スキルとして活用することができる。	④ 営業・マーケティング ⑤ 人事・労務 ⑥ 設計・製造 (PLM)
シルバー	対象業務分野のアプリケーションシステムの提案・開発(特に詳細設計・製作段階)・運用において、一般的・基礎的業務知識/スキルを保有する。	⑦ 生保・損保 ⑧ クレジット

これらの育成プログラムにより、社員がモチベーションを高め、パフォーマンスの高い活力ある組織風土を醸成し、その結果として、会社業績に寄与することを期待しています。

また、2009年度から育成ローテーションをスタートさせ、各人が将来を見据え、長期的視点で効率的・効果的な育成を図れるよう、個別キャリア計画の中に組み込んでいます。

新入社員早期育成プログラムから始まる全社の階層別・職種別の教育・研修体系は次のとおりです。

- アプリケーションマスター認定制度
アプリケーション開発に必要な業務知識・スキル (生産管理、経理・財務など)
- フォーカススキル、クリティカルスキル

- プロフェッショナル研修
ITスキル / 業務知識・スキル / ヒューマンスキル
- 階層別研修
新任管理職 / キャリアデザイン / 知的財産 / 新入社員研修 / 内定者教育(通信教育) / 個人情報保護
- 全社教育研修
人権啓発 / 適正取引 / プライバシーマーク / 情報セキュリティ 他

➤ 社内表彰制度

コベルコシステムでは、会社に著しい貢献や顕著な成果が認められたものに対して与えられる社長賞等の各種アワードを設けて、お客様や会社に対する社員の貢献や成果に報いる制度を運用しています。



■ ダイバーシティマネジメント

➤ 女性活用促進

2001年に全社横断プロジェクトとして、KWC (KOBELCO Systems Women's Community) を立ち上げ、「女性社員がイキイキ働き続けられる会社」をビジョンとして掲げ、当初、女性社員がイキイキ働き続けやすい会社づくりをテーマにした女性だけのタスク活動を行い、会社へのさまざまな提言を行って来ました。



その提言から、会社は育児・介護休業制度や短時間勤務制度というような、重要な人事制度の導入や改訂を行いました。

さらに、「女性が働き続けやすい＝男性社員にとっても働き続けやすい」という考えのもと、男性管理職や男性の若手社員も活動に参画するようになり、多様な意見・価値観を会社への提言に繋げる活動になっています。

▶ 外国人採用促進

ダイバーシティーという言葉が普及する前から、人種や国籍、性別、年齢、障害の有無に関係なく採用してきました。

また、会社として外国人を分け隔てなく育成し、活躍を支援していくことで、社員全員が多様性を尊重し、認め合う土壌が育まれてきました。

それにより、国内に留まらず地球規模で経済が動いている現在、社員の個性や能力を活かすことで、グローバル化やお客様のニーズの多様化に対応し、新たな価値を創造するという、コベルコシステムにとっての強みになってきましたが、それがさらに、ダイバーシティー・機会均等という社会的責任を全うする姿勢に繋がっています。

▶ 高齢者雇用促進

原則希望者全員を再雇用するという「高齢者再雇用制度」を実施しています。勤務形態には、フルタイム勤務型とパートタイム勤務型があり、最長65歳まで契約更新できる仕組みとなっています。

再雇用社員は技術・スキルの伝承者および実務従事者として大きな役割を担っており、その活躍推進に引き続き取り組んでいます。

▶ 障害者雇用促進

ハローワーク神戸主催の「障害者合同就職面接会」に毎年ブースを開設するなど、障害者雇用を積極的に推進するとともに、IT業界のインフラ面での利を生かし、個々の能力を十分に発揮で

き、安心して働ける職場環境の整備に努めています。

現時点の障害者雇用率は 2.0%と、法定雇用率(1.8%)を上回っていますが、引き続き雇用の促進に向けた取り組みを継続していきます。

■ ワークライフ・バランス

コベルコシステムでは、近年、社員の会社・仕事に対する価値観は多様になってきており、各々の能力を存分に発揮していくためには、会社としてもそのための職場環境づくりが重要であると考えています。

従来から、法定以上かつ同業他社と比べ「イコールorベター」の福利厚生制度を追求し、生活と仕事のバランスを保ちながら、個々の事情に応じて働ける制度の拡充に努めています。

そして、特に少子高齢化に社会全体で取り組んでいく必要性や、企業の社会的責任を十分に認識し、現場の実態や社員のニーズに即応した支援や制度の拡充等の施策を実施してきた結果、2009年7月に次世代認定マーク(愛称:くるみん)を取得しました。



■ 社内コミュニケーションの活性化

コベルコシステムでは、普段から「〇〇さん」とさん付けで呼び合っており、職位・年次に関係なく、会話できる雰囲気はあることから、比較的風通しよく、コミュニケーションをとれていると考えています。

また、社長自ら全事業所を回り、タウンミーティングと称して、中

堅・若手社員と直接会話する機会を設けていることを始め、他の経営幹部



も各々に同様のアクションを実施して、コミュニケーションの醸成を図っています。

所属長と部下個々人とは、年2回実施しているC.C.Pを通じ、1年間の業務・スキル目標の設定や達成状況の相互確認、キャリア計画に関する要望の確認やアドバイス等のコミュニケーションを行っています。また、さまざまな機会を通じ、スキルアップや生活面についての相談やアドバイス等のコミュニケーションを図っています。

さらに、最近では社内SNSを通じて組織や事業所という括りを越えた人的ネットワークを構築し、仕事についての相談・意見交換などが活発に行われています。

一方、業務外では、同好会活動や社内SNSを通じて、同じ趣味を持つ仲間の人間関係を構築することも積極的に行っています。



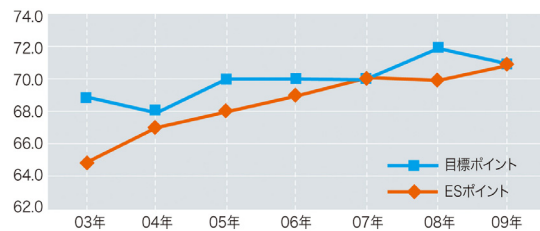
社長による2009年度経営方針説明会（全社キックオフ）

■ 社員満足度向上活動

CS経営を掲げるコベルコシステムにおいて、「ESの向上なくして、CS向上はあり得ない」という基本認識の下、社員満足のマクロな指標として、社員満足度調査(ES調査)を2001年から毎年実施し把握しています。

ES調査結果のESポイントは、組織的能力の重要な指標として位置付けており、ESポイントもこれまで着実に上昇してきましたが、ESポイント以上に社員コメントを含めた分析結果から出てきた組織面での課題を重視し、全社共有の課題に対する改善施策は、社長コミットメントとして、全社員に向けて発表しています。また、各部門毎の課題も同様に、各部門

長がその部下に対して改善施策をコミットメントしています。



社員満足度

そして、ES調査で出てきた課題は、短期・中期の経営計画/年度実行計画・人事労務施策に改善策を反映させることで、ES向上がCS向上の動きへと繋がっています。

■ 労働関係法の遵守

「コベルコシステムの最大の資産は人であり、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮こそが会社発展の原動力である。」との人事基本理念のもと、

- 一人ひとりが互いを尊重し合い
- イキイキと働き
- プロフェッショナルとして、人間として成長できる

会社の実現を図り続けています。

そのために、コベルコシステムでは、社員の職場での安全・健康を確保することが会社の重要な責任のひとつであり、労働基準法・労働安全衛生法を遵守し、労使間で締結した従業員就業規則ほか労働関連諸規程に基づき、安全で衛生的な職場環境の維持・整備に努めています。

また、各事業所では月1回、労使の代表が数名より構成される「安全衛生委員会」を開催しています。

この委員会のリードにより、安全衛生関連法令や安全ルールの徹底、安全衛生管理活動の徹底と定着への仕組みづくりは勿論のこと、広く職場環境の改善・向上に向けた活動を行っています。

昨年、加古川事業所において、全員一致のこれまでの災害防止活動が評価され、2件の表彰を受けました。

■ 人権啓発への取り組み

コベルコシステムは、自律した知的プロフェッショナルがチーム一丸となり、新たな価値を創造し続けることで、お客様の経営に貢献し、お客様に信頼される真のパートナーとなることを目指しています。

そのために、自己の可能性を広げようとする人材を広く募り、個々の能力を最大限に発揮できる場を提供することで、社員と会社双方の成長を目指しています。

これらを実現していくために、国籍・性別・年齢・障害などによる差別をしない人物本位での採用を実施しています。

また、人権を尊重し、あらゆる差別のない健全な職場環境を確保するために、各階層別研修における人権研修の実施などの人権啓発活動を行っています。

■ セクシャルハラスメント防止への取り組み

「コベルコシステムはセクハラを絶対に許さない」という会社としてのスタンスを明確にするために、社員の服務規律を定めた従業員就業規則において、セクハラ行為は懲戒処分に該当することを規定し、セクハラに対する厳しい姿勢を示しています。

そして、職場におけるセクシャルハラスメント防止のため、その推進体制を明確にするとともに、問題が生じた場合に迅速かつ適切な対応を図るため、苦情・相談窓口を設置しています。

■ 「こころ」と「からだ」の健康管理

コベルコシステムにとって何よりも大切な財産である社員の健康に配慮した職場環境をつくり上げることが最も重要な責務のひとつであると考え、「こころ」と「からだ」の両面の管理体制の整備・充実を図っています。

「こころ」の面では、神戸・東京両本社に「何でも相談室」を設置し、専門のカウンセラーによる電話・メール・対面での相談機会を設けています。また、従来からの管理職向けのメンタルヘルス研修に加え、一般社員にも2007年からメンタルヘルスセミナーを開催しています。

「からだ」の面では、定期健康診断の受診徹底とその後のフォローを着実にを行うことにより、生活習慣病の予防に努めています。また、新任管理職が40歳になった時点で、定期健康診断に代えて、人間ドッグを受診するようにしており、特に働き盛りの中堅社員への健康管理の充実を図っています。

■ ファミリー・イベント

社員相互の親睦を図るため、社員・関係会社社員とその家族も参加したイベント「ファミリーデー」を開催しています。

2009年は11月下旬に、関西地区は神戸フルーツフラワーパークで、東京地区は浅草花やしきで開催し、多くの社員やその家族が秋の一日を楽しみました。



■ ビジネスパートナー様とともに

コベルコシステムのビジネスはビジネスパートナーの皆様との協力の上に成り立っています。コベルコシステムがお客様に提供する多種多様な情報システムやサービスは、その多くがビジネスパートナー様の協力を得ながら構築したり運用したりしているものです。

そこで、ビジネスパートナー様との関係は、コベルコシステムのコーポレートガバナンスの観点を踏まえつつ、健全で Win-Win の取引関係を構築することを基本方針としています。

この基本方針に則り、コベルコシステムはビジネスパートナーの皆様とともに、お客様へのデリバリーサービスの高付加価値化と高品質化に向けて互いに成長するための活動を続けています。

■ 適正取引の推進

ビジネスパートナー様に協力いただく際の委託方式には数種類がありますが、コベルコシステムではそれぞれの方式に合わせた正しい発注・進行管理を推進しています。

その推進のために全社横断型の「適正取引推進委員会」を設けて、具体的な指示を社内に徹底する一方、ビジネスパートナー様に対しても定期的なレターを送付、アンケート調査の実施、説明会・講演会の開催、個別訪問などを通じて協力をお願いをしています。



適正取引推進委員会

最近の主な取り組みとしては以下があります。

- ビジネスパートナー様に提供している作業スペースや機器の取り扱いの明確化
- 請負契約における、委託業務内容の明確化・文書化
- ビジネスパートナー様における、適正取引の推進状況の調査

- 適正取引セミナーの開催



■ ビジネスパートナー様のコンプライアンス

コベルコシステムは、ビジネス遂行上、さまざまなパートナー様へ委託を行う場合があります。これらを行う上で、委託先を含めたお客様へのサプライチェーン全般にわたるコンプライアンスを追求しています。

■ 情報セキュリティの向上

ビジネスパートナーの皆様は、コベルコシステムからの委託業務を処理する中で、お客様の情報を含む種々の秘密情報、個人情報に接する機会があります。また、ビジネスパートナー様の従事者が使用するパソコン等からコンピュータ・ウィルス等が社内に広まり、コベルコシステムの業務遂行に支障を来す可能性も捨てきれません。

そこで、各ビジネスパートナー様とは以下のような種々のレベル・機会・方策で、秘密情報やコンピュータ機器の適正な扱いをお願いしています。

- 機密保護契約の締結
- ビジネスパートナー様の、構内作業開始・終了時における諸手続きの整備と実施
- ビジネスパートナー様の常駐作業者の教育履修と、ビジネスパートナーとしての遵守誓約書提出を義務付け
- ビジネスパートナー様における、情報セキュリティ向上への取り組み状況の調査
- 委託業務毎(プロジェクト毎)での遵守すべき事項の徹底と、遵守状況のフォロー

■ お互いの成長に向けた活動

お客様に提供するシステムやサービスの高付加価値化、高品質化を図るためには、それらを構築・開発・運用する際に協力いただくのに相応しいビジネスパートナー様を選ぶこと、さらには将来に向けてこれらビジネスパートナー様に技術や開発管理能力を磨いていただくことが大切であると、コベルコシステムは認識しています。

コベルコシステムでは、このような認識のもと、以下のようにしてビジネスパートナー様の選択・育成に努めています。

- ビジネスパートナー様各社からその得意技術・分野などを開示いただき、それら情報を参考に協力を依頼する分野を明確化するなど、中・長期の協業方針を確立する。実際の発注時にはこれらを参考に発注先を検討・選択する。

- ご協力いただいた作業について、その結果をコベルコシステム側で評価し、今後の選択での参考に供する。併せてその結果を当該パートナー様に開示して今後の成長に向けてお互いの課題を確認する。



パートナー表彰会

■ グローバルパートナー様の活用

お客様の低価格要求への対応や、お客様の海外拠点対応/サポートを目的に、グローバルパートナー様を活用しており、品質を維持するために、PMによる活用実績評価を実施しています。

また、グローバルパートナー様の活用においては、大量破壊兵器の開発者やテロリスト集団など懸念活動を行う恐れのある者に、軍事的に転用される恐れのある物が渡らないようにする輸出管理プロセスを運用しています。

■ ハードウェア製品安全審査の実施

お客様に安全に使用できる製品を提供するため、安全審査担当者による製品安全確認に努めております。

社会とともに

コベルコシステムでは、ITソリューション/サービスの提供により、お客様の発展とチャレンジに貢献していくことを通じ、社会への貢献を果たしていると考えています。

また、コベルコシステムがビジネスを遂行していく中で、企業市民として、コベルコシステムの得意とする知識や保有する経営資源で可能な範囲で社会への貢献を着実に実行していくことも必要であると考えています。以下に主な社会貢献活動を紹介いたします。

■ 地域 ICT 産業振興への貢献

関西経済同友会、兵庫工業会、神戸商工会議所情報産業部会、兵庫ニューメディア推進協議会、地域ICT推進協議会等の地域団体に加入し、役員や会員としての活動に努めて、地域情報サービス産業振興や地域の情報化に貢献しています。

■ IT 人材育成の支援

▶ インターンシップの受け入れ

情報サービス産業に関し、自治体や大学・工業高等専門学校等から「実務の厳しさを経験させ、将来の業務に役立たせたい」、「仕事内容を知り、将来の職業選択に役立たせたい」などの要望があり、人材育成の観点から、受け入れ研修を実施しています。

● インターンシップ

大学・工業高等専門学校から、学生のインターンシップの受入を行っています。

● 留学生インターンシップ

経済産業省の「アジア人財資金構想」高度実践留学生育成事業の一環として、留学生のインターンシップの受入を行っています。



▶ アニメーション神戸への協賛

神戸市がデジタル映像制作の人材の育成とデジタル映像産業の振興の一環として毎年主催する「アニメーション神戸」に2007年度から協賛しています。

特に、Webアニメーション部門にはコベルコシステム賞を設け、最優秀作品はコベルコシステムのホームページで紹介や各種イベントでの紹介を行っています。



【コベルコシステム賞 2009年度受賞作品】

募集テーマ: 「夢をかなえる！」

受賞作品: 夜空にツバサ

▶ その他の人材育成支援

その他、次のような支援を行っています。

- 大学等への講師派遣
- ひょうご情報教育機構出捐

■ 大規模地震災害援助募金活動

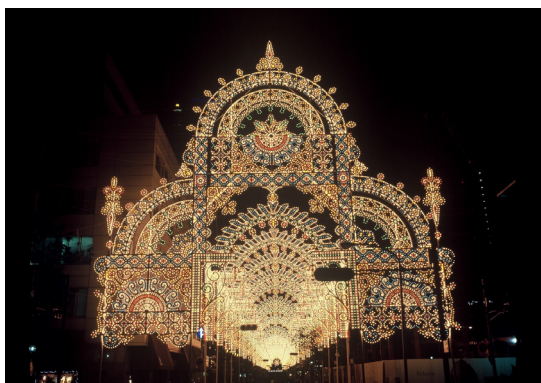
コベルコシステムは、1995年1月の阪神・淡路大震災に遭遇し、会社事業遂行面、および社員の生活面で甚大な損害を被ったこともあり、大地震被災者救援に対する思いは格別なものがあります。

過去、スマトラ沖地震、ジャワ島中部地震、新潟県中越地震、中国四川大地震等大規模震災発生時、社員への援助募金活動を行い、会社としての支援金と合わせ、関係機関を通じて被災者に送っています。

■ 地域イベントへの協賛

コベルコシステムは、寄附や協賛を通じて、地域の伝統や文化の維持に貢献しています。

- 神戸まつり
- 神戸ルミナリエ
- 脇浜南宮宇佐八幡神社

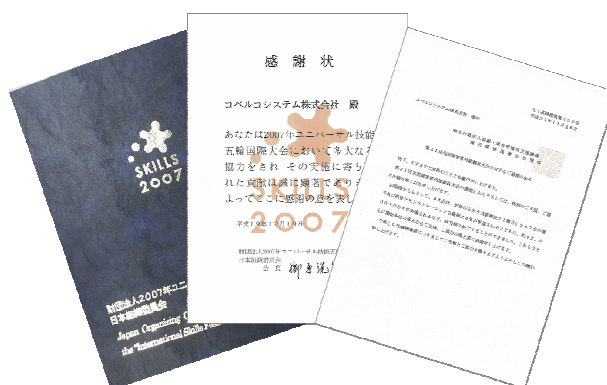


© Valerio Festi/I&F Inc./Kobe Luminarie O.C.

神戸ルミナリエ

■ 障害者支援

コベルコシステムは、2003年から全国障害者技能競技大会(アビリンピック)に協賛し、AutoCADの種目において、ソフト貸し出し、導入支援や大会当日のサポート等を行っています。また、2007年ユニバーサル技能五輪国際大会(第39回技能五輪国際大会と第7回国際アビリンピックおよび併催イベントの総称)にもサポートを行いました。



支援に対する感謝状

■ 発展途上国への支援

- 使用済みプリペイドカードの収集
JOICFP(ジョイセフ)の発展途上国の生活改善運動の推進に協力しています
- ペットボトルキャップの収集
世界の子供にワクチンを送る、「エコキャップ運動」に参画しています。



CSRに関連する認証・認定

■ 外部表彰および外部機関による認定取得状況（2009年1月～2009年12月）

表彰名・認定名	主催	受賞・認定内容
くるみん認定	厚生労働省	男性の育児休業取得を積極的に推進するなど、仕事と家庭の両立支援に取り組んでいることが評価され、厚生労働省の次世代認定マーク(愛称:くるみん)を取得しました。
こうべ男女いきいき事業所	神戸市	男女がともに働きやすい職場づくりに向けて、積極的な取り組みを行っている会社・組織として評価され、神戸市から表彰されました。
田宮賞 銅賞	田宮記念事業会	経営品質向上に全社一丸となって取り組んできた活動が評価され、神戸製鋼グループの最高の賞である田宮賞の銅賞を受賞しました。

■ 取得済の認証・認定



ISO9001 適用部署：
ERP 本部・ビジネスソリューション本部・ソリューションサービス本部・ICT ソリューション本部
登録活動範囲：
製造業、流通業及びその他の産業向け顧客要求事項に基づくソフトウェアの設計・開発・製造及び付帯サービス(教育、移行支援及び瑕疵対応)



登録範囲：
ハウジングサービス及びセキュリティ運用管理サービスにかかわる情報資産のセキュリティを保護するための情報セキュリティマネジメントシステム

■ 編集後記

本レポートを最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。

本レポートはすべて、2009年4月に発足したCSR推進委員会のメンバーが、それぞれの担当分野について、できる限りわかりやすく伝えることを心がけて作成いたしました。

まだまだ専門用語や社内用語があり、思いが十分に伝わらない部分もあったのではないかとと思いますが、今後、CSR活動を強化していきながら、本レポートの内容も充実させていきます。

なお、添付のアンケートまたはWebのCSRアンケート入力画面から忌憚のないご意見をいただきましたら幸いです。

Webアンケート入力画面: <http://www.kobelcosys.co.jp/csr/report/questionnaire.html>

本レポートの内容に関するご意見、お問い合わせは下記で承っています。

コベルコシステム株式会社
経営・人財企画部 CSR担当

〒651-0072 神戸市中央区脇浜2丁目11-14 (神鋼ビル ネオエスト)

TEL: 078-261-6148

FAX: 078-261-7520



本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています。

印刷に関する配慮



印刷工程において有害廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

用紙に関する配慮



森林管理協議会 (Forest Stewardship Council) から認証を受けた適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。

インクに関する配慮



環境負荷の少ない大豆油インクを使用しています。